



李天祿布袋戲文物館



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/2126/



エリア

新北市

テーマ

歴史

民族

教育

芸術・文学

李天祿布袋戲文物館

脈々と受け継がれる布袋戲の名人、 李天祿・李傳燦親子を記念する資料館

布袋戲(台湾語で「ポテヒ」)とは、漢人の社会で継承されてきた人形劇で、李天祿(1910-1998)、李傳燦(1946-2009)は布袋戲の発展に生涯をささげた親子です。李天祿が設立した布袋戲の劇団である亦宛然是海外でも多数公演を行っており、非常に高い評価を受けています。台湾北端の三芝にある李天祿布袋戲文物館には、李親子の功績、布袋戲の人形、楽器、舞台装置などが展示され、歴史的に貴重なものも少なくありません。また関連書籍やグッズも販売されています。人形のレプリカなどはいいいおみやげになるのではないのでしょうか。文物館の一带は芝柏山莊という芸術村であり、芸術家の作業場や民宿、喫茶店などが散在しています。

学 び の ポ イ ン ト

1.

布袋戲とは？

17世紀初期に福建南部で生まれたとされる芸能で、19世紀中ごろに台湾に伝わりました。人形のなかに手を入れ、たくみな指づかいで細やかな動作をつくりだします。伝統的な上演方式では、写真にあるような舞台で人形をあやつり台詞を語る「前場」と、楽器を演奏したり歌を歌ったりする「後場」という演者によって構成されます。かつては廟や街角、劇場などで演じられていましたが、テレビの普及などにより1970年代以降には人々の日常的娯楽としての地位を失ってしまいました。しかし海外で、さらには台湾でもその芸術的価値が認識されるようになり、今日では台湾を代表する伝統芸能の一つとして振興がはかられています。

2.

李天祿とは？

李天祿は台北生まれで、父、祖父とも布袋戲の演者でした。幼いころから布袋戲を学び、1931年に亦宛然を立ちあげましたが、彼を台湾内外で一躍有名にしたのが1980～90年代に出演した何本かの映画です。今日台湾映画界の重鎮となっている侯孝賢の監督作品では、「恋恋風塵」と「悲情城市」(→「九份」の項参照)で老人役を好演しました。また「戲夢人生」は、李自身を登場させての語りを交えながら、彼の半生を叙情的に描いています。長男の陳錫煌(1931-)、次男で亦宛然を継承した李傳燦とも著名な布袋戲の演者です。

3.

今後の伝承は？

大衆娯楽としての布袋戲の黄金期および衰退期を生きた李天祿ですが、それゆえに布袋戲の伝承や一般社会での認知の向上に熱心にとりくみ、多くの弟子を育てました。晩年の1996年にこの文物館、翌年に李天祿布袋戲文教基金会が設立されたのも、そうした努力が結実したとも言えるでしょう。今日でも亦宛然が、演者の育成や地元三芝の小中学校をはじめとする各地の学校での布袋戲の指導、普及に力を尽くしています。